

受精卵移植技術と地域システムを活かした肉専子牛生産による 酪農経営の安定をめざして

熊本県菊池郡大津町 田代敏尋牧場

高温多湿の西南暖地での酪農経営は、乳牛にとって不利な飼養環境条件を負荷しながらも、農家相互の連帯と研究によって土地の有効利用と更に乳牛の能力発揮のノウハウを出し合い、次第に規模拡大、高収益による経営の安定をめざして頑張っています。

その中で、近年乳肉複合経営へのET技術利用により、牛肉輸入自由化対応策としての生産費節減と品質改善による製品差別化を可能とする肉専子牛生産に取り組むことにより、乳価の引き下げ、出荷枠の制限等で減収する酪農経営の所得拡大に期待する農家が増加しています。そこで、本県の主要畜産地域である菊池郡東部で、昭和59年からこれらの課題に取り組み、地域内一貫体制の確立により、畜産農家の経営体質の強化とともに消費者を含めた地域全体の活性化をめざして積極的に活動している“東肥バイオファーム”という組織があります。今回はそのシステムを効率的に利用して、近年の厳しい酪農事情の中にありながら高位の生産と安定した所得をあげておられる上記の優良経営者を紹介します。

経営概要

- (1) 労働力：2名 本人 田代敏尋さん、妻和子さん
- (2) 飼養頭数：搾乳牛 50頭（経産）育成牛27頭
ET用ドナー2頭（黒毛和種）育成牛2頭（黒毛和種）
- (3) 労働時間：搾乳2時間/日 主として本人さん担当
哺乳・育成3時間/日 主としてご夫人担当

ETに取り組んだ動機、目的

当初、家畜市場でのホルスタイン種とF1とのスモール価格差が大きく、F1生産出荷をしていました。

今後、わが家の酪農経営を維持していくための諸条件、①規模拡大によるスケールメリットを可能にする投資、労働力、②乳価の動き、③子牛、廃用牛の収入等を検討して、ET導入による高位収益性が期待されている肉専用種子牛生産を選択しました。

E T 技術導入により得られた経営上の利点と特長

- (1) E T 活用実証展示農家となって、広範囲の関連情報（血統、交配、発育成績、市況）が多く得られるようになりました。
- (2) 搾乳後継牛はホルスタイン種育成牛全頭の外部導入によって充当し、育成期間の短縮につなげ、育成費用の節減となり経営効率が良くなりました。
- (3) 肉専用種子牛、F1子牛（E T 受胎率の低い母牛には黒毛和種精液の人工授精）販売によって高位収入と安定した経営計画が進められます。
- (4) 高能力、高付加価値が期待できる肉専用種ドナーは育成牛を導入しています。
- (5) 哺乳、育成牛舎は既存の建物を改造し、環境条件を良くするための機器を設置した程度で特別に高額投資はしていません。
- (6) 効率的な作業分担により、ゆとりが作られ、グループ活動参加が可能となりました。



簡便化された哺乳牛舎



通風・日当たりの良い育成牛舎



カウハッチ

田代牧場のE T成績

(表一I) 移植及び産子の状況

年度	移植頭数	受胎頭数	受胎率(%)	生産頭数	備考
4	30	18	60.0	13	
5	61	31	50.8	26	
6	53	29	54.7	24	
7	59	38	64.4	31	死・流産7頭

(表一II) E T産子の哺育・育成状況

年度	分娩頭数	生産頭数	事故頭数	事故率(%)	備考
3	23	14	9	39.1	
4	19	14	5	26.3	
5	16	12	4	25.0	
6	26	23	3	11.5	
7	26	25	1	4.0	
8	32	31	1	3.1	

(1) 受胎率向上を図るための対策

(表I) に示すとおりの受胎率を維持するために

- ① 獣医師の定期巡回検診・指導
繁殖機能減退牛の早期発見と治療
- ② E T後の発情が再帰しない牛についての流産防止処置

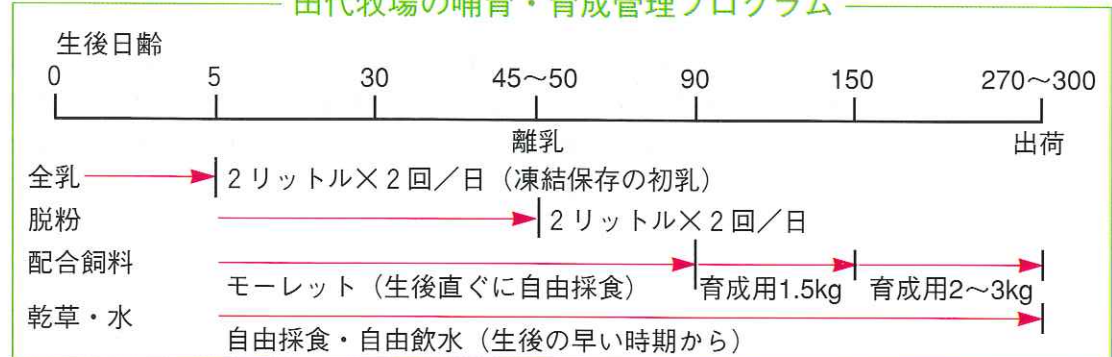
(2) 哺育・育成牛の事故率低減対策 (表II)

- ① 関係機関への相談、家畜改良事業団マニュアル参考による管理方法の改善
- ② 凍結保存初乳(3産以上の母牛のもの)、有効活用
初乳の特性(母牛保有の免疫物質を受け、外界からの病原体感染防禦、ビタミン、ミネラルの補給)



凍結保存された初乳
(事故防止のキーポイント)

田代牧場の哺育・育成管理プログラム





◀ E T 産子牛

▶ 乾燥した牛床で休む出荷前の育成牛



今後の展望

田代さんが菊池台地の一角で父上が築かれた酪農経営を後継されてから、畜産経営環境は国際化の波に揉まれて厳しい変化をし続けている状況にあります。

その中で熟慮され、選択したのが乳肉複合経営での低コスト化と、安定した高位生産による所得の向上でした。平成元年から E T 技術の導入に取り組み、家族を含め、仲間同志達とともに、幾多のトラブルに遭いながらも、懸命な努力と研究を重ねて、今日の成果をあげて来られた姿に敬意を表したい。今後とも、この経営手法を選択する地域の畜産農家・グループの中核として益々活躍され、明るい将来への展望を開かれるよう期待して止まない。

レポーター

熊本県畜産会相談窓口員 合志 重信